

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立津高等学校)

1 目指す姿

| | | |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 | | 「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | <ol style="list-style-type: none"> 1 日常において「自主・自律」を実践できる、知・徳・体の調和のとれた生徒 2 主体的に学び、自らを律し、粘り強く努力することで、生涯にわたって自己実現を図るとともに、心豊かで、高い志を抱いて社会に貢献できる生徒 |
| | ありたい 教職員像 | <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもたちに対する愛情にあふれ、豊かな人間性、人権感覚を備えた教職員 2 目指す学校像の実現に向け、前向きでチャレンジ精神にあふれた組織風土の中で、同僚性を育み、自らの専門性を高め続ける教職員 |

2 現状認識

| | | |
|-----------------------------|---|---|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | <p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質が高く、生徒が能動的に取り組む授業 ・ 安全で安心できる学校生活と一人ひとりが大切にされる教育活動 ・ 総合的な学力の伸長と進路希望実現 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの学力と人間力の伸長、そのための教育活動の充実、安全・安心な学習環境 <p><地域社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で信頼される「公立進学校」として、将来の社会を支える市民を育成するとともに、地域を活性化させる教育活動を行うこと | |
| | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全・安心な学校生活・学習環境 ・ 子どもの人間的成長と進路希望実現 <p><地域社会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の学力および人間力の伸長 ・ 学習活動における連携・協力 2 地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーとしての姿勢や態度の育成 ・ 地域活動への生徒の積極的な参加 3 大学、研究機関等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的研究の理解と興味・関心の喚起 ・ 人的、物的な教育資源の活用 4 卒業生（同窓会） <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自主・自律」の伝統の継承 ・ 同窓会活動における在校生との交流 | <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校教育方針の理解と協力 ・ 相互の信頼に基づく意思疎通 <p><地域社会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動における連携・協力 2 地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民性、社会性を育む学習機会の提供 3 大学、研究機関等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な研究活動の機会や場の提供 ・ 生き方や進路等を考える機会の提供 4 卒業生（同窓会） <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自校教育」の機会の提供 ・ 生き方や進路等を考える機会の提供 |

| | | | | | |
|-------------------------|---|-------------|--|--------------|---|
| <p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p> | <p>○今、社会で求められていて、生徒が身に付けたいと感じているものと、学校が身に付けさせようとしているものが違っていると、生徒は疲れてしまう。社会や時代の変化に適応していく学校が求められている。</p> <p>○教員が誘導し決まった丁寧な指導をしていると、行儀は良いが発想力が乏しいこじんまりした生徒になってしまう。自由な発想が当たり前の校風にしていく必要がある。</p> <p>○今伸ばし切れていない力、これからの社会の中で必要となる力、自由な発想を多方面から分析し、育てていくための環境をつくる必要がある。</p> <p>○入試改革に対応するためだけではなく、記憶ではなく考える力を育てる必要がある。そのためには探究活動は重要である。</p> <p>○教員の質こそが学校の重要な資源である。働きやすい職場環境づくりを是非実現してほしい。</p> | | | | |
| <p>(4) 現状と課題</p> | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="268 555 379 943"> <p>教育活動</p> </td> <td data-bbox="379 555 1528 943"> <p>○授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントについては、取組が十分ではない状況であることから、教科横断的な視点から教育活動の改善を進め、学校の組織力向上を図る必要がある。</p> <p>○本校生徒の育てたい資質・能力を踏まえ、新学習指導要領に対応した教育課程の編成を今年度中に完成させる必要がある。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業期間が長期化し、生徒への学習保障が課題になることから、授業の補填やオンライン教育を推進する必要がある。</p> <p>○数字には表れない生徒の資質を多面的、多角的に評価するあるいは伸長を促す方法を、研究・実践する必要がある。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 943 379 1279"> <p>学校運営等</p> </td> <td data-bbox="379 943 1528 1279"> <p>○時間外労働時間は前年度よりかなり減少しているものの、今年度から「三重県立学校における教育職員の在校等時間の上限等に関する規則」に則り、時間外労働時間が1か月45時間以内、1年間360時間以内を遵守できるよう、さらに学校全体で抜本的な業務削減など、環境整備を行う必要がある。</p> <p>○生徒の抱えている問題が多様化していることから、保護者だけでなく、多様な外部専門機関と連携をさらに進めていく必要がある。</p> <p>○本校の教育活動が生徒にとってより魅力あふれるものになり、そのことが結果的に校外にも広く伝わるよう、学校全体の活動をより良いものにしていく必要がある。</p> </td> </tr> </table> | <p>教育活動</p> | <p>○授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントについては、取組が十分ではない状況であることから、教科横断的な視点から教育活動の改善を進め、学校の組織力向上を図る必要がある。</p> <p>○本校生徒の育てたい資質・能力を踏まえ、新学習指導要領に対応した教育課程の編成を今年度中に完成させる必要がある。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業期間が長期化し、生徒への学習保障が課題になることから、授業の補填やオンライン教育を推進する必要がある。</p> <p>○数字には表れない生徒の資質を多面的、多角的に評価するあるいは伸長を促す方法を、研究・実践する必要がある。</p> | <p>学校運営等</p> | <p>○時間外労働時間は前年度よりかなり減少しているものの、今年度から「三重県立学校における教育職員の在校等時間の上限等に関する規則」に則り、時間外労働時間が1か月45時間以内、1年間360時間以内を遵守できるよう、さらに学校全体で抜本的な業務削減など、環境整備を行う必要がある。</p> <p>○生徒の抱えている問題が多様化していることから、保護者だけでなく、多様な外部専門機関と連携をさらに進めていく必要がある。</p> <p>○本校の教育活動が生徒にとってより魅力あふれるものになり、そのことが結果的に校外にも広く伝わるよう、学校全体の活動をより良いものにしていく必要がある。</p> |
| <p>教育活動</p> | <p>○授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントについては、取組が十分ではない状況であることから、教科横断的な視点から教育活動の改善を進め、学校の組織力向上を図る必要がある。</p> <p>○本校生徒の育てたい資質・能力を踏まえ、新学習指導要領に対応した教育課程の編成を今年度中に完成させる必要がある。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業期間が長期化し、生徒への学習保障が課題になることから、授業の補填やオンライン教育を推進する必要がある。</p> <p>○数字には表れない生徒の資質を多面的、多角的に評価するあるいは伸長を促す方法を、研究・実践する必要がある。</p> | | | | |
| <p>学校運営等</p> | <p>○時間外労働時間は前年度よりかなり減少しているものの、今年度から「三重県立学校における教育職員の在校等時間の上限等に関する規則」に則り、時間外労働時間が1か月45時間以内、1年間360時間以内を遵守できるよう、さらに学校全体で抜本的な業務削減など、環境整備を行う必要がある。</p> <p>○生徒の抱えている問題が多様化していることから、保護者だけでなく、多様な外部専門機関と連携をさらに進めていく必要がある。</p> <p>○本校の教育活動が生徒にとってより魅力あふれるものになり、そのことが結果的に校外にも広く伝わるよう、学校全体の活動をより良いものにしていく必要がある。</p> | | | | |

3 中長期的な重点目標

| | |
|--------------|--|
| <p>教育活動</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「高い志」「自主・自律の精神」を育成し、高い次元での文武両道を実現し、生徒一人ひとりの人間力を高める。 2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進、ICTを活用した取組等、授業を中心とした教科指導を充実し、確かな学力の向上を図るとともに、入学から卒業まで見通した進路指導を充実させ、生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に取り組む。 3. 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、倫理観、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の豊かな人格形成に取り組む。 4. SSH事業を全校体制で推進し、生徒一人ひとりに「探究心」を醸成し、「創造性」「協働性」「課題解決能力」を育み、国際社会で活躍できる人材を育成する。 |
| <p>学校運営等</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員の資質能力の向上に取り組むとともに、教職員同士の助け合い・教え合いの文化を育み、教職員が一丸となって取り組む組織力ある学校づくりを行う。 2. 教育活動や学校運営について組織的・継続的な改善を図るとともに、学校・家庭・地域との連携を強化し、学校力を高める。 3. 業務の精選、総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が情熱とやりがいを持って、健康で働くことのできる環境づくりを行う。 |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------------|---|---|----|
| 主体的学習者の育成と確かな学力の向上 | <p>◇質の高い授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進等に組織的に取り組み、質の高い授業づくりを目指します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの実施（年2回） ・「探究的な学び」につなげるため、アンケート項目の見直しを検討 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的」および「深い学び」に関するアンケート項目について、生徒の回答の③「ほぼ満足」および④「満足」の割合の合計の値が75%以上、かつ④の値が40%以上 <p>◇学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぶ習慣の定着を図るため、初期指導を充実させる一方で、提出課題の量をなるべく少なくして自ら考えて学習するよう指導します。 <p>【活動指標・成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語、数学、国語の「学習ガイダンス」の実施 ・振り返りアンケートにおいて、各教科とも「役立った」「まあまあ役立った」の合計が90%以上 ・学習意欲の向上を図るため、「高い志」を持たせるとともに「学ぶ意義」を意識させることを、継続的に働きかけます。 ・「学校生活についてのアンケート」項目「意欲的に学習に取り組んでいるか」について、生徒の回答の②「だいたいできている」および③「できている」の割合の合計の値が80%以上、かつ③の値が35%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目を2つ変更しました。 ・10月に前期授業アンケートを実施しました。「(設問1)学ぶことに興味や関心が持てた」の回答は③+④が84.2%、④が37.7% 「(設問2)学んだことを活用し、深く考える場があった」の回答は③+④が79.7%、④が34.0%でした。 ・3月に後期授業アンケートを実施しました。(設問1)の回答は③+④が85.9%、④が35.0%、(設問2)の回答は③+④が81.9%、④が30.7%でした。 ・提出課題を選択制にするなどの取組が始まっていますが、担当者によるところが大きいのが現状です。 ・4・5月の臨時休校に伴う行事の組み換えにより学習ガイダンスは実施しませんでした。休校期間中にはGoogle Classroomを活用して学習支援をおこない、その中で学習方法の説明をするなどの取組をしました。 ・「意欲的に学習に取り組んでいるか」の回答は②+③が82%、③が26%でした。 | ◎ |

改善課題

- ・今年度は、4月・5月の一斉休校があり、6月以降の授業に関しても感染症対策をしながら授業を、ということで、例年と比べてペアワークやグループワーク等の実施が限定的にならざるを得ませんでした。そのため実際に「対話」することができず、その中において「主体的・対話的な学び」をどのように実現するかが難しい課題でした。来年度に向けて、教室へのプロジェクターの配備やWi-Fi環境の整備等が進んでいるので、それらを活用することで授業内における「主体的・対話的な学び」「深い学び」につなげることが期待されます。これらのツールを「如何にして使うか」が重要になるため、活用法を組織的に検討していきたいと考えています。
- ・生徒の「主体的に学びに向かう力」を育成するにはどうすればよいか、例えば提出課題を減らすことなどについて、現状では各々の担当者による取組となっていると言わざるを得ず、これを学校全体で組織的に検討していくことが、ある程度は必要であろうと考えられます。
- ・上記の「主体的に学びに向かう力」の評価方法の検討や、「学習意欲の向上」の方策を検討する必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|--|--|----|
| 進路指導 | <p>◇「自主・自律」の精神の涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高い知性と教養を持ったリーダー」の土台となる「自主・自律」の精神の涵養を目指し、生徒が、必要な情報を自ら分析・判断し、実際に必要な行動に移せるような資質を養うことを目指します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が将来について考えられる機会の提供 ・日々の学習と社会の接点が意識できるような活動を提供することによる社会貢献の意識の醸成 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一進路希望実現率等 | <ul style="list-style-type: none"> ・LHR や長期休暇等を活用し、進路について調べ、まとめる活動を各学年で実施しました。 ・校外での活動が例年より少なくなりましたが、オンラインなどを利用した研修を一部実施しました。 ・成果指標について、55%の生徒が11月時点の志望校（国公立、私立含む）に出願し、そのうちの45%が合格しました。 | ※ |

改善課題

・ICT等を活用しながら、生徒の進路学習や外部と連携した活動をさらに充実させる必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|--|---|----|
| 人権教育 | <ol style="list-style-type: none"> 1 人権を重んじ自由と責任を自覚した人間の基盤となる力をあらゆる教育活動の中で培います。 2 生徒の自主性を大切にしたい人権学習を展開します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒人権委員会の活動（内容） | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による影響で当初予定した内容・学習形態の見直しを迫られたものの概ね予定通り行うことができました。 | ◎ |

改善課題

・新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら、人権学習を充実させるにはどうすればよいか考える必要があります。学習内容も重要ではありますが、人権学習を深めるためのよりよい学習形態というものも考えていきます。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|---|--|----|
| 生徒指導 | <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣の確立を目指します。 2 社会生活におけるマナーの向上を目指します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全・登校指導週間、完全下校巡視、校内巡視、情報モラル・いのちの教育講座の実施 ・生徒会活動、HR活動、部活動、課外活動を奨励します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種教育活動の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率等 ・互いの人格を尊重し、他人を思いやる心を育成します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種集会での講話等の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導を実施することで、通学路の生徒の安全やマナーの向上、挨拶の徹底につなげています。 ・生徒会行事や部活動を通じて、元気で、積極性のある生徒の育成を目指しました。年度当初での部活動加入率は97%でした。 ・三重県いじめ強化月間取組みとして、生徒会を中心に、挨拶運動・ピンクシャツ運動を行いました。 | ※ |

改善課題

・コロナの影響もあり、縦割りディスカッション、いのちの教育及び情報モラル講演会を開催することができませんでした。イベントに頼らず、日頃からの細やかな指導の重要性を改めて感じます。次年度に生かしていきたいと思えます。

・安全で安心な学校生活を送るためにトラブルの早期発見・解消ができる体制作りしていく必要があると考えています。

・スマートフォンの使用について、さらなるマナーやルールの徹底をはかる必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|---|--|----|
| 国際教育 | <p>◇SSH事業、マレーシア研修等を活用した国際交流活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な視野の育成を図ります。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH台湾研修の実施 ・次年度SSH台湾研修の計画立案 ・次年度マレーシア研修の計画立案・現地校との交流 <p>◇各種団体の主催する国際交流活動への参加を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会主催の海外研修等への参加を推奨します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流活動参加生徒の、のべ人数 | <ul style="list-style-type: none"> ・SSH台湾研修を一部実施しました。(10名参加)ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、SSH台湾研修における台湾での現地校との交流はできませんでした。 ・各種団体の国際交流事業や留学等の推奨について、生徒へ情報提供を行いました参加生徒はいませんでした。 | |

改善課題

- ・SSH台湾研修の生徒の指導について、サポート教員に加えて研究テーマの専門知識のある職員、ALTおよび英語科と連携して支援する必要があります。
- ・台湾の高校生との交流が、訪問して終了するのではなく、インターネットなどを使用して、訪問前後も負担感なく継続して交流が行われる持続可能な事業にしていく必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|---------|---|---|----|
| 文化活動の推進 | <p>◇読書生活指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校図書館を、読書生活を支える場・自主学習の場・交流の場として捉え、幅広い知識と豊かな情操を養う資料を収集整備して、活用の充実に努めます。また、文化活動を通じて文化的教養を育成します。 <p>【活動指標、成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書環境の整備、利用の促進(貸出5,000冊、生徒貸出率35%) ・分掌・学年・教科等との連携、およびSSH、LHR、授業等への支援 ・各種コンクールへの応募、上位入賞目標 ・蔵書管理のシステム化、「学校図書館資料共有化ネットワーク事業」の推進 ・図書館を文化情報センターとして位置づけた、文化・学習にかかると情報収集と情報発信 ・文化講演会・読書週間行事(朗読会)・ビブリオバトル・推薦図書紹介・ギャラリー展示、青空図書館等の実施 <p>◇芸術鑑賞の奨励</p> <p>1 PTA主催の芸術鑑賞補助事業等への参加を積極的に促します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞事業等への参加人数 | <p>貸出 6343冊</p> <p>生徒貸出率 36.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津高生に本を届けようプロジェクト、癒やしのコーナー、青空図書館、図書委員大賞、匠の部屋、創立140周年展、明治・大正の書物展、書の甲子園出品作品展、新書点検読書、図書館探究講座①②、「探究」推進部との連携、一志病院との連携企画、文化講演会、黄昏どきの朗読会、カバン・Tシャツ生徒作品展、図書館ライブ1音楽部、図書館ライブ2ダンス部、車座トーク「津高生の歩き方」 ・第66回青少年読書感想文 [三重県審査] 優秀賞2名、優良賞2名 <p>・今年度は、芸術鑑賞補助事業が実施されなかったため、参加者はいませんでした。</p> | ※ |

改善課題

- ・新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら、日頃体験できないような芸術作品に触れることのできる機会となるように企画し実施します。
- ・読書環境の整備については、事務部の協力により、移動機の整備、新型コロナウイルス対策として網戸の整備、chromebook の図書館配備とそれに伴う電気工事等により交流の場としての図書館活用は進めることができました。今後は図書館の機能を生かした授業活用を推進するため、普通教室同様、学校ネットワークに参加した無線 LAN 機能を持つ常設のプロジェクタとスクリーン、ホワイトボードの導入が課題であります。
- ・図書館を文化情報センターとして位置づけた様々な情報を発信する行事を進路指導部、「探究」推進部等の協力のもと実施することができました。課題としては、参加する生徒に多少偏りがみられたこともあり、今後は様々な生徒の参加を考えた情報発信を考える必要があります。
- ・読書活動の推進については、1年越しの目標である生徒貸出率 35%が達成されたとはいえ、6割強の生徒が図書を借りていないこともあり、今後はこの層の生徒にいかに読書を促すかが課題です。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|--|--|----|
| 健康教育 | <p>◇保健管理と保健教育、健康相談</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心身共に健康で安全な生活を自主的に実践できる能力および態度の育成に努めます。 2 健康診断、健康相談の充実と事後指導の徹底に努めます。 3 学年毎の健康重点目標に沿った健康教育の充実を図ります。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健講話(各学年 1 回) ・「保健だより」の年 10 回発行 <p>◇救急時の対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安全に対する意識を高める指導を行います。 2 救急体制の充実を図ります。 <p>◇感染症予防への取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の早期探知及び生徒健康状況の把握を行います。(欠席状況調べ、健康観察等) 2 感染症を未然に防ぐ取り組みを進めます。(手指消毒液等の環境整備、感染症に関する保健指導等) <p>◇教育相談</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全ての教育活動をとおして、生徒の悩みや不安の解決に向けた支援や対応を行います。 2 生徒を取り巻く環境を把握し、支援や対応を行います。 3 保護者、担任、学年主任、保健室、部活動顧問等と情報を共有しながら支援や対応を行います。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年 12 回以上) ・「教育相談だより」の年 3 回以上の発行 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健講話：1年生の性教育、2年生の薬物乱用防止教室、3年生の受験期の健康管理を実施しました。 ・「保健だより」は定期号が 12 回、新型コロナウイルス感染症に関する臨時号を 7 回発行しました。 ・発達障がい支援員との面談を 9 回実施しました。 ・スクールカウンセラーとの面談を 29 回実施しました。 ・スクールカウンセラー緊急派遣による相談を 1 回実施しました。 ・教育相談だよりを 4 回発行しました。 | |

改善課題

- ・今年度実施した感染症対策を学校全体で継続して取り組んでいくために、保健だより（臨時号）等を通じて発信を継続する必要があります。
- ・継続して安全意識を高め事故の未然防止に努めるとともに、危機発生時の救急体制について、教職員の共有を継続する必要があります。
- ・生徒の抱える問題の多様化・複雑化に対応するためには、担任、養護教諭、保護者との日々の連携はもちろんのこと、特別支援員、時には病院の医師との連携も必要です。生徒の困り感の早期発見、情報共有、対応の必要性がますます重要となってきました。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|--|---|----|
| 防災教育 | ◇防災学習の充実 1 避難経路、避難方法を年度早期において確認します。 2 より実際的な場面を想定した避難訓練を実施します。 3 「防災ノート」を活用した防災学習を実施します。 【活動指標】 ・防災訓練、防災学習の実施（年各1～2回） | ・年度初めに防災計画、防災組織を更新し、避難経路図およびハザードマップを掲示して周知を図りました。 ・10月5日、「防災ノート」を活用した防災学習、及び地震・火災を想定した避難訓練を実施しました。 | ※ |

改善課題

- ・生活のあらゆる場面での防災意識と具体的な行動についてさらに学習を深める必要があります。
- ・校内防災組織及び避難経路等の具体的な防災計画を実態に即したものに更新する必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------------|---|---|----|
| 探究的活動の推進とSSH事業への取組 | ◇探究活動を核とし、全ての教育へつなげる科学教育システムの構築 1 探究心を醸成し、創造性、協働性、課題解決能力を育みます。 2 SS探究活動を中心に、主体的・対話的に課題を追求できる仕組みを構築します。 3 校内外の児童・生徒が相互に刺激を受けながら資質・能力を高め合う取組を実施します。 【活動指標】 ・「SS探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「夏季フィールドワーク」、「試行的な課題研究」の実施 ・「SS探究活動Ⅱ」において、1年間にわたる「課題研究」の実施、「SSH児童・生徒研究発表会」での研究成果の発表 ・「SS探究活動Ⅲ」において、2年次の研究成果の論文作成 ・「SS先進科学」「SS生命科学」「SS特別講義」の実施 ・「みえ科学探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」、「SSH台湾研修」等の実施 | ・「SS探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「夏季フィールドワーク」、「試行的な課題研究」を実施しました。 ・「SS探究活動Ⅱ」において、「課題研究」を実施しました。 ・「SS探究活動Ⅲ」において、論文作成を実施しました。 ・「SS先進科学」「SS生命科学」「SS特別講義」を実施しました。 ・「SSH児童・生徒研究発表会」、「みえ探究フォーラム」（名称変更）、「国際科学技術コンテスト強化講座」を実施しました。 | ◎ |

改善課題

- ・「SS探究活動」において、研究が深化するためには、テーマの設定に時間をかける必要があると考えます。1年生での試行的な課題研究の経験を2年生の課題研究へつなげる必要があると考えます。また、すべての教科・科目の授業をはじめとするすべての教育活動で探究的な学びの機会を提供するとともに、探究活動で身に付ける協働的な議論の手法、思考の整理方法や学びに対する態度の醸成をさらに図ることが課題です。そのためにも上級生が下級生に対して指導助言できる機会を設けることも課題と考えます。外部の発表会への参加者や論文コンテストへの挑戦者を増やすことが課題です。学年、サポート教員、各教科や分掌、外部機関などと柔軟に連携を図りながら、より主体的に探究するよう、適切に支援する必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|---|---|--|----|
| 環境・美化教育 | ◇環境美化、公共性の向上に向けた取組 【活動指標・成果指標】 ・美化委員会による清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック ・美化委員によるゴミ分別のチェック（原則毎日） ・環境美化改善へ、生徒のアイデアを取り入れた取組の実施 ◇環境問題に対する意識の醸成 【活動指標】 ・「環境週間」を設け、その一日を「学校環境デー」として美化委員で美化活動を実施 | ・美化委員会を4回開催し、清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバックを行いました。 ・集積場でのゴミの分別を美化委員がチェックしました。 ・学校環境デーを11月19日実施しました。参加者は生徒25人・教職員7人の合計32人でした。 | |
| 改善課題 | | | |
| ・ゴミの分別は、地域のよって分別方法が異なるため、分別が紛らわしいものの徹底が難しい。生徒・教職員への周知を徹底させる工夫がより必要です。 ・環境デーについては、秋の開催となり、ゴミの清掃というより落葉拾いになりました。時期を考える必要があります。（今年はコロナによる休校のため、他の時期に開催できなかったため） | | | |

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|---------------------|--|---|----|
| 授業力向上の取組と教育課程の研究・改善 | ◇授業力向上の取組 ・授業研究や授業公開、授業評価等をとおして、授業力の向上を図ります。 【活動指標】 ・「授業力向上に向けた各教科の取組シート」の作成 ・全教科1回以上の授業公開の実施。学習指導委員が中心となり、他教科の授業見学を推進 ・教科内において、授業研究を実施・研究協議の充実・教員相互で、授業力を向上 ・保護者を対象とした授業公開の実施（3日間） 【成果指標】 ・各教科における、授業アンケートの、授業改善のための資料としての活用、成果の検証 ◇「カリキュラム・マネジメント」の視点から、日々の教育活動について組織的に改善をおこない、また、探究的な学びの指導方法や評価方法についての研究を行います。 【活動指標】 ・学習指導委員会を中心とした様々な教員による、指導方法・評価方法の検討および実践の検証 ・学習指導のあり方・宿題のあり方等について教員間で意見交換をする場の設定 | ・各教科で「授業力向上に向けた取組シート」を作成しました。 ・全教科で授業公開を実施しました。 ・臨時休校による行事の組み換え及び感染症対策の観点から今年度は保護者対象の授業公開は実施していません。 ・教科会の場において、指導方法等の検討・情報交換を行っています。 | ◎ |

改善課題

- ・「学習指導委員会」を2週間に1回、時間割の中に設定することで、学習指導のあり方等について意見交換を行いたいと考えていたが、今年度は4・5月の臨時休校もあり、また、新教育課程に向けた教育課程表の作成等の課題に追われて、なかなかそのような時間をとることができませんでした。来年度に向けて、どのように意見交換し、議論するのが有効かを検討していきたいと思えます。
- ・「探究的な学び」を日々の教育活動につなげるという点についても、教員がそれぞれ行っている取組を情報交換することで、学校全体に広げていくことが必要であると考えられます。また、ICT環境を生かした授業についても模索していく必要があります。
- ・「授業改善はしたいが、忙しくて余裕がない」という現状がありますので、行事の精選、業務の改善をさらに進めていくことが必要であると考えます。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------|--|--|----|
| 進路指導に関する情報共有 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路決定に必要な情報を学年団に随時提供し、データを効果的に活用した指導体制を構築します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革等にかかる情報提供 ・校内外の試験の結果を基にした学年での成績分析会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内外の成績データを基に分析会を実施し、情報交換や指導方針の共有を行いました。 ・入試の変更点について、各学年と随時情報を共有しました。 | |

改善課題

- ・様々な観点から見た生徒の資質や可能性を教員間でさらに共有する必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------------------|--|--|----|
| 人権教育に関わる情報、方法の共有 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人権教育に関わる研修、フィールドワーク、研究会等への参加を促進します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権だより」の発行、研修会の開催等 ・人権教育推進協議会の設置と情報の共有 ・人権教育推進協議会の開催、人権教育推進計画の策定 | <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校明けに高校生友の会に参加している生徒より、新型コロナウイルス感染症に関わる差別偏見についてメッセージを発信しました。 ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、動画視聴による教員研修を行いました。 ・人権教育推進協議会については、新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら実施することができました。 | |

改善課題

- ・教職員研修について新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら充実した研修を行うにはどうしたらよいかを考える必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|----------------|--|--|----|
| 生徒情報および指導方法の共有 | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生徒理解に基づいたきめ細やかな支援を行います。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年会等での生徒情報交換の実施 面談週間をはじめ、随時面談を実施 綿密な保護者との連携、情報共有 より良い関係性構築に向けた校内での情報共有 特別支援教育にかかる教員研修の実施 特別支援教育委員会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 週1回の学年会、月1回の分掌会議において、学年内及び学年をまたいだ生徒情報の共有をはかるとともに、必要に応じて保健部や保護者と連携して生徒がより成長できるよう取り組んでいます。 特別支援教育職員研修会を1回実施しました。 特別支援教育推進委員会を2回実施しました。 | ◎ |

改善課題

- 社会の変化に応じた生徒指導のありかたを常に意識し、生徒への声掛け、見守り、保護者との連携等を通したさらなる関係づくりを、チームとして実施していく必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------|---|---|-------------|
| 働きやすい職場環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> 業務の精選や改善、校内組織の点検等を行い、総勤務時間縮減を図ります。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時退校日を月に1日 部活動休養日を週に1日 放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合を85% <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下の範囲内 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 1人当たりの年間休暇取得日数 2日/年増加 | <ul style="list-style-type: none"> 定時退校日として、定時退校週間に月1日。 部活動休養日を週に1日。 60分以内に終了した会議の割合82.1%(昨年度75.4%) 時間外労働時間平均21.8時間(昨年度38.4時間) 月45時間を超える時間外労働者82人(昨年度261人) 年360時間を超える時間外労働者24人 休暇取得日数平均18.5日(昨年度17.2日) | ◎ ※ ※ |

改善課題

- 時間外労働時間はSSS(スクールサポートスタッフ)の活用、業務の改善により減少させることができました。時間外労働者については減少が見られ、定時退校週の設定や部活動の休養日の設定等成果が見られました。休暇取得日数が増加していないため、年休取得しやすい職場環境を整備する必要があります。

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--|---|---|----|
| <p>広聴・広報活動</p> | <p>◇学校関係者評価委員会による学校評価を実施します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会の実施（年2回） <p>◇ホームページ（HP）の活用、自治会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にHPを通じた情報発信を行います。また、「津高校だより」等を通じて、地域の方々等に本校の現状や取組についてお知らせします。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新（連絡、行事等の活動・成果に応じて、年間50回以上の更新） ・「津高校だより」の発行（年間6回程度） <p>◇津高入門講座、学校見学会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の「素」の姿を中学生や保護者をはじめとした方々に公開し、本校の教育活動を理解していただくとともに、更なる改善につなげます。例年、夏季に開催しているものを10月以降に形態を変更して実施します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津高入門講座・学校見学会への参加促進と円滑な運営、参加人数およびアンケートの集約 <p>◇学校PR用ポスター・パンフレットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校PR用のポスターおよびパンフレットを作成し、広報活動に活用します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各中学校（生徒・保護者）への必要数配付 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策により、第1回・2回とも書面で開催しました。 ・HPを通じて、情報発信に努めました。 ・HPの更新回数74回（～1月） ・「津高校だより」を年間5回発行しました。 ・夏季の津高入門講座は感染症予防から中止しました。 ・10月11日（日）に午前・午後の2部に分けて学校見学会を開催し、中学3年生561名の参加がありました。本校生徒による学校紹介等、好評でした。 ・在校生が作画したデザインをもとに本年度版の学校パンフレット、およびポスターに代えてクリアファイルを作成し、中学校に配布しました。 | |
| 改善課題 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページをより利便性・即時性のあるものにしていく等、本校生徒や保護者、地域の方々や中学生等が必要とする情報が発信できるようにしていく必要があります。 ・本校生徒の学習活動や課外活動をもとに、生徒が主体となって広報活動に参加できる企画を継続、改善していく必要があります。 | | | |

5 学校関係者評価

明らかになった
改善課題と次へ
の取組方向

- ・授業アンケートで8割が「学ぶことに興味を持てた」、「学んだことを活用し、深く考える場があった」と答えたのは大きな成果であります。高校時代に主体的学習を身につけておかないと、大学入学後の授業や卒業研究にも影響します。
- ・コロナ禍の状況の中で、趣向を凝らした取組を見ることができました。本年度の成果と課題を具体的に捉えて、次年度へと生かしていく必要があります。
- ・今後も「自主・自律」の精神が長く受け継ぎ、「多様な個性の尊重」を図りつつ、それぞれ豊かな人格形成を目指して欲しいと考えます。

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ
いての改善策

- ・「深い学び」を実現するために、整備されたICT機器の活用方法を組織的に検討していく必要があります。
- ・「自主・自律」の精神を受け継いでいくためにも、生徒の「主体的に学びに向かう力」を育成する方法を、学校全体で組織的に検討していく必要があります。

学校運営につ
いての改善策

- ・本年度はスクールサポートスタッフの活用により、時間外労働時間は削減することができましたが、来年度は配置される時間数が減ることから、一層の業務削減に取り組む必要があります。
- ・ICT機器の導入によりその活用が求められる中、使用スキル向上のための研修などを効率的に取り入れ、教職員の負担にならないように進めていく必要があります。